

製品名: カテプシン B ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab08009

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	38,40,25kDa

抗原情報

遺伝子名	CTSB
別名	CTSB; CPSB; Cathepsin B; APP secretase; APPS; Cathepsin B1
遺伝子 ID	1508.0
SwissProt ID	P07858
免疫原	抗血清はヒトカテプシン B 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 168-217

背景

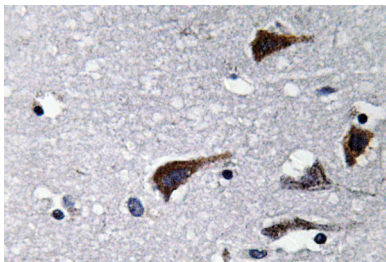
この遺伝子は、C1ファミリーのペプチダーゼの一種をコードしています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。これらのバリエーションのうち少なくとも1つは、タンパク質分解によって複数のタンパク質産物が生成され

るプレプロタンパク質をコードしています。これらの産物には、カテプシン B の軽鎖と重鎖が含まれ、これらは二量体化して酵素の二重鎖型を形成します。この酵素は、エンドペプチダーゼ活性とエキソペプチダーゼ活性の両方を持つリソソームシステインプロテアーゼであり、タンパク質の代謝に関与している可能性があります。アミロイド前駆体タンパク質セクレターゼとしても知られ、アミロイド前駆体タンパク質 (APP) のタンパク質分解プロセッシングに関与しています。APP の不完全なタンパク質分解プロセッシングは、認知症の最も一般的な原因であるアルツハイマー病の原因因子であると示唆されています。コードされたタンパク質の過剰発現は、食道腺癌をはじめとする腫瘍と関連付けられている。触媒活性: ペプチド結合に広い特異性を持つタンパク質加水分解酵素。低分子基質中の-Arg-Arg-|-Xaa 結合を優先的に切断する (したがって、カテプシン L とは異なる)。エンドペプチダーゼであることに加えて、ペプチジルジペプチダーゼ活性を示し、C 末端ジペプチドを遊離させる。機能: 細胞内タンパク質分解およびターンオーバーに関与すると考えられているチオールプロテアーゼ。腫瘍浸潤および転移にも関与していることが示唆されている。類似性: ペプチダーゼ C1 ファミリーに属する。細胞内局在: ステージ I からステージ IV までのメラノソーム分画において、質量分析法によって同定されている。サブユニット: ジスルフィド結合によって架橋された重鎖と軽鎖の二量体。

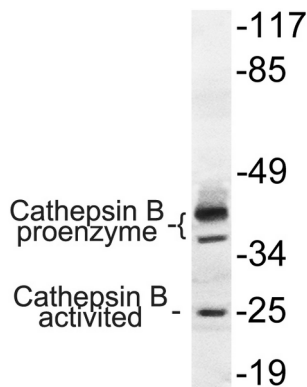
研究分野

リソソーム;抗原の処理と提示;

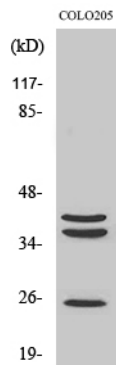
画像データ



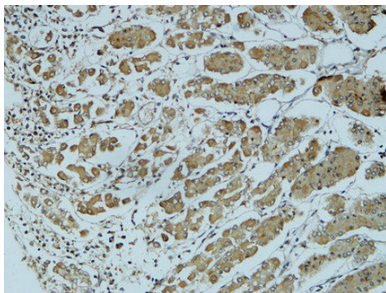
パラフィン包埋ヒト脳組織におけるカテプシン B 抗体の免疫組織化学分析。



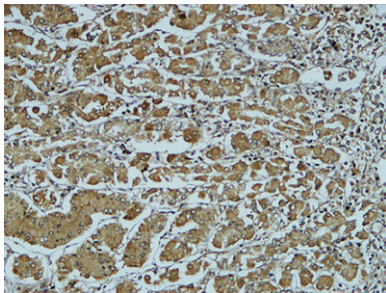
カテプシン B 抗体を使用した COLO 細胞溶解液のウエスタンブロット分析。



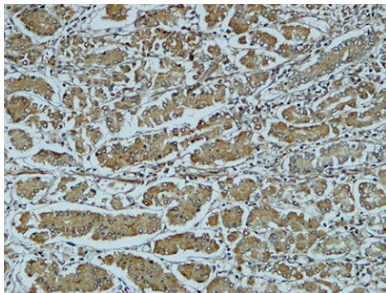
カテプシン B ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。